

鯨未利用部位を活用した鯨油キャンドルの商品開発と鯨油の可能性



経済学部 公共マネジメント学科

KISHIMOTO Mitsuhiro

岸本 充弘 教授

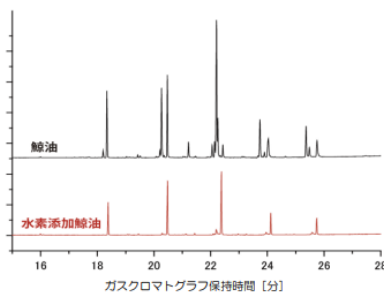
博士（学術）

専門分野：捕鯨産業史／文化史・水産経済学・鯨未使用部位活用



研究の概要

南極産クロミンククジラの未利用部位である脂皮を原料とし山口県産業技術センター、(株)吉田総合テクノの技術により搾油した鯨油に水素添加反応を施し、水添鯨油として加工したものを、ゼミで商品開発した鯨油キャンドルの原材料として使用しています。



鯨油の脂肪酸組成分析



鯨油の水素添加反応



鯨油キャンドルの試作試験

(出所：山口県産業技術センターホームページ)

研究の新規性・独創性

2019年に再開された日本の商業捕鯨では、鯨未利用部位の有効活用や新たな製品化が課題となっています。海洋マイクロプラスチックが環境問題となっている現在、鯨油は石油代替原料となる可能性を秘めています。

これまでの実用実績

- 鯨油キャンドル「くじらの灯」としてゼミ生により商品化(令和7年1月)
- 「下関くじらサマースクール」での鯨油キャンドル作り開催
- 「鯨油を利用した健康補助食品・養魚飼料の試験製造等」
(2019年度実証事業円滑化実証等対策事業（沖合域）・水産庁補助事業)



関連情報

- <https://www.iti-yamaguchi.or.jp/docs/2025030500014/>(山口県産業技術センターHP)
- 下関市立大学の3年生が商品開発に取り組んだ『鯨油キャンドル』の販売がスタート
https://www.kujira-town.jp/news/20241226_20241226-2/
- 鯨油が眼の難病治療に効果をもたらす可能性についての研究が徳島大学医学部柳井先生のグループにより進められています。
<https://faseb.onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1096/fj.202402041R>